

# BioPlus

## 耐性菌(たいせいきん)

# 「耐性菌」 とは何か。

ブリーダーの皆様、いつも大変お世話になっております。今回は「耐性菌」についてお話しさせていただきます。

さてまず「耐性菌」とは…「抗生物質が効かない（効きにくい）細菌」のことです。細菌には、非常にたくさんの種類があります。そしてその細菌の力を阻害してくれる薬が「抗生物質」です。人類はその歴史上で、細菌と戦うべく様々な抗生物質を発見・合成してきました。たとえば人類が最初に発見した抗生物質がペニシリンです。ペニシリンは 1928 年に発見されて以降、第二次世界大戦中にも多くの負傷者の命を細菌感染から救い「20 世紀における偉大な発見」の一つとされてきました。

ですがペニシリンが使われ始めたわずか数年後、「ペニシリン耐性菌」が出現しました。「ペニシリンが効かない細菌」です。現代社会でもペニシリン耐性菌は存在しており、人類との戦いは続いています。しかし、なぜ耐性菌など出現するのでしょうか。

「耐性菌」。それは突然変異を起こし、特定の抗生物質に対して耐性を持った細菌のことです。細菌もいわば生物の一種ですから、抗生物質により攻撃されれば生き残るためになんとか抗生物質から逃れるべく、突然変異を起こすものが出てくるのです。そしてその突然変異株である耐性菌が増殖してしまう原因として「抗生物質の無秩序な濫用」があります。

抗生物質が安易に生体に投与されると、細菌がどんどん死ぬ一方で、突然変異で耐性を持った耐性菌が生体内に生き残ります。中途半端に抗生物質を投与された生体内では、その耐性菌が増殖し、いつしか多数派を占め、生体内は耐性菌だらけになる、という経過をたどるのです。生体が耐性菌だらけになればどうでしょう…それまで効いていた抗生物質が効かなくなり、細菌 vs 抗生物質（を武器とした人類）の戦いは、細菌に軍配があがることとなります。細菌に負けたヒトは或いは動物は、命すら脅かされることとなります。

投薬が必要か？ どのお薬を選択するか？ 判断することは重要です。また投薬期間についても自己判断による投薬中止で結果的に治療が長引くことがあります。病気を早く治すために、耐性菌を増やさないために、抗生物質はかかりつけの獣医師の処方のもと、適切に使用することが大切です。



☎03-5646-6894 FAX 03-5646-5822

URL <http://www.ahb.jpn.com>

<http://www.bioplus.jp>

# AHB

〒135-0042 東京都江東区木場 3-7-1 1  
株式会社 AHB

\* 具体的にお困りの方は獣医師までご遠慮なくご相談ください。